

6. 広島市安芸区最高峰

小田山 (718.8m)

広島市安芸区／東広島市



安芸区阿戸町と東広島市黒瀬町(中黒瀬)・西条町(郷曾)の境にあり、安芸郡熊野町からの登山道もある。「こたさん」「こたやま」「おだやま」など麓で山名は違う。

広島市安芸区	2017,4,1 推定
<面積>	94.08km ²
<人口>	79,100人
<人口密度>	841人/km ²

【山行日】 11月26日(日) ☆天候：曇り

【参加者】 18名 CL石田明日子 SL中島美代子

三村 坂井 杉山 宮木(澄) 大坂 長松 新江 小川 田所 原田 栗栖 松本
井原 越智 藤原 佐々木

【コースタイム】

矢野駅前バス停 8:15—熊野営業所 8:50—9:05 海上側バス停— 9:40 国草登山口(体操)—
10:10 笹が峠登山口—11:30 小田山頂上(散策、記念撮影)—12:05 双子岩手前(昼食) 12:35
—13:35 里山アート村(休憩) 14:00—14:45 阿戸出張所前バス停 15:26—15:40 熊野営業所(解散)

【報告】

天気予報は曇りだけど、空はどんよりせつかくの紅葉も色あせて見える、下山まで雨が降らないようにと願いつつの山行になりました。

朝早く矢野駅に集合、熊野営業所で阿戸行きのバスに乗るとほとんどやまぼうしで貸し切り状態になりました。海上側バス停より見る小田山はなだらかで穏やかな山に見えました。秋の紅葉や、民家のかりんの木や柿の実を觀賞しつつ1時間かけて笹が峠登山口に到着。

ここからいきなりの急登と本格的な登山道に入ります。ロープにつかまったりしながら滑りやすい道を登ると下り坂、ピークを2つ越えイラスケ分岐から小田山に向かいます。時々見える景色を楽しみながら登りきると頂上着きました。ここは景色がないためリュックを置いて手洗鉢岩に上がり眼下に広がる展望を楽しみ、恒例の記念撮影を行い、頂上より降りて林道の付近で昼食を取りましたが風がきつくととても寒さが身に沁みました。



前回下見したとき、国土地理院地図にないこの山道の為やや迷いましたが、今回は下見のおかげで迷うことなくスムーズに下山口を見つけることができ、下見は大切だなあとつくづく感じました。途中、大きなふんや、イノシシやタヌキとは思えない足跡にビビりながら無事アート村に到着、時間調整の為ここでのんびりしたあと、バス停に向かい約2kmの道路を歩いたのですが、皆様健脚で早く到着しすぎて長い時間雑談を交わしながらバスを待つことになりました。時間どおりぴっ

たりにバスが来てこれまたほとんどやまぼうしの貸し切り状で熊野営業所に着きここで解散しました。

秋の紅葉が美しく、もっと晴れていればもっとよかったのにと残念でしたが、小田山は広島でも有数の1等三角点のある山だとIさんに教えていただき、とても好きになりました。

(記 石田明日子)

小田山麓の阿戸町には「里山あーと村」がある。

阿戸町は以前は熊野跡村(安芸郡)と呼ばれていたが、1974(昭和49)年広島市に合併する際に名前を変更し現在に至る。その合併時の協定書に“阿戸町には豊かな自然を残し、広島市民の憩いの場に育てる”との項目があり、その約束にそって280haの市有林とその周りの棚田を舞台につくられたのが「里山あーと村」である。(参考：阿戸町郷土史 宮脇時夫著 1999 発行)

里山あーと村の企画・運営は、地域住民、参加者、行政の3者が一体となって行われていて(里山あーと村運営協議会)活動は「この指とまれ」方式。やりたいことは、みんなの話し合いによって次々と事業化。こうして発展してきたあーと村は、現在、

「農」(やさいの会、そば・小麦の会)

「森」(森の整備、学校林、炭焼き)

「環境施設」(石垣積み、手づくり施設、ログハウスづくり)

「里山の会」(あーと村キッズ、ビオトープ)

「合同行事」(田植え、森のジャズライブ、収穫祭など) の各部会ごとに活動を展開。

すべてみんなで作ってる!
東屋もトイレも……



屋外音楽堂で
ジャズライブ
すごい人!!



そばを育てた
棚田



安芸区最高峰小田山山頂で



今までやまぼうしで登った安芸区
の他の山
藤ヶ丸山 長者山
呉娑々宇山